

## 平成27年度第1回教育研究評議会議事要旨

日時	平成27年4月17日（金）15時30分～16時53分
場所	大学本部2階大会議室
出席者	佛淵学長，瀨口理事，中島理事，岩本理事，甲斐文化教育学部長，平地経済学部長，石橋工学系研究科長，渡邊農学部長，森田医学部附属病院長，早川総合分析実験センター長，都築評議員，畑山評議員，大島評議員
欠席者	宮崎理事，藤本医学部長，諸泉全学教育機構副機構長，富田附属図書館長，大田評議員，萩原評議員
陪席者	増子特任教授

- 議事に先立ち，事務局長から，4月1日付で着任した幹部職員等について紹介があった。

### 【 審議事項 】

#### 1. 学長選考会議委員の選出について

総務課長から，本件について，国立大学法人佐賀大学学長選考会議規則第3条第2号により，国立大学法人佐賀大学教育研究評議会規則第2条第1号及び第2号を除く委員のうちから，学長選考会議委員を選出するものである旨の説明があり，審議の結果，渡邊農学部長の選出が了承された。

#### 2. その他

特になし。

### 【 報告事項 】

#### 1. 国立大学法人佐賀大学の中期目標・中期計画の変更について

企画評価課長から，本件について，平成27年1月16日の教育研究評議会，1月20日の経営協議会及び役員会にて審議了承され，平成27年1月29日付け文部科学省に認可申請を行っていた，中期目標を達成するための計画（中期計画）の変更の認可について，申請のとおり認可する旨の回答があったとの報告があった。

#### 2. 「佐賀大学プロジェクト研究所」の新規認定について

中島理事から，本件について，平成27年度から新たに活動する佐賀大学プロジェクト研究所の募集を行ったところ，5件の申請があり「佐賀大学プロジェクト研究所規程」（平成24年3月28日制定）に基づき総合研究戦略会議において審査及び平成27年4月8日開催の役員会において，認定された旨の報告があった。

#### 3. 研究倫理教育の実施に関わる「CITI Japan」の導入について

中島理事から，本件は，「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」（平成26年8月26日文科大臣決定）に対応するため，平成27年2月

27日に制定した、「国立大学法人佐賀大学における公正な研究活動の推進に関する規程」において研究倫理教育に関し規定したところであり、平成28年度からは科研費における研究倫理教育の受講が交付の必須条件とされる予定であることもあり、e-learningのCITI Japanプログラムについては、総合研究戦略会議で了承し、学長決裁により導入を決定したものである旨の報告及び今後のスケジュールについて説明があった。

4. 全学委員会等の審議状況報告について  
特になし。

5. その他

机上配布の冊子「社会連携の取組み」について、中島理事から紹介があった。学長から、学外はもとより、学内においてさらに周知するためにも、ぜひ活用してほしい旨の発言があった。

#### 【 意見交換 】

- ・中教審答申を踏まえた高大接続改革に向けた戦略  
～第3期中期目標・中期計画を意識して～

学長から、今回の意見交換では、中教審答申を踏まえた高大接続改革に向けた戦略～第3期中期目標・中期計画を意識して～をテーマとし、意見をいただきたい旨の発言があった。次いで瀬口理事から、概要について説明があった。

さらにアドミッションセンター長及び副センター長から、資料に基づき次のような説明があった。

今回の中教審答申は、高校教育・大学教育・大学入学者選抜の一体改革が一つのポイントであり、大学入試センター試験が廃止され新しい共通テストが行われることになった入試改革を利用して高校教育・大学教育の一体改革を行うものである。佐賀大学としての個別試験は「確かな学力」の3要素という新たなキーワードを踏まえた、多面的・総合的評価へ転換する。このような入試改革の進め方として、アドミッションセンターからの以下の提案事項があった。

- ・佐賀大学版CBT(Computer Based Testing)を活用することにより、多様な出題方法による能力測定が可能になる。
- ・受験生の主体的な活動に応じた特色加点を配点する。
- ・高校生の自主的な活動を促すための高大連携活動として、継続的なプログラムを開発し、eラーニング等も積極的に活用する。

このような取組みを展開し、問題等はフィードバックして解決していくことにより、他大学に先駆けた佐賀大学・育成型次世代入試モデルを構築したい旨の説明があった。

瀬口理事から、以上の説明を踏まえて、皆様から意見・感想等をいただきたい旨の発言があった。

文化教育学部長から、今後の入試改革については非常に気になっていたところであるが、このような具体的な提案はわかり易い。特に高大連携プログラムの見直し

が立てやすい。CBT の活用については環境等の問題もあるかと思うので課題もあるが、特色加点はすでに A0 入試で行われており、主体性を見るという点では非常に良いと思うが、総合的な評価システムを学内で検討いただきたいとの意見があった。

経済学部長から、佐賀大学入試改革モデルの提案であったが、国立大学である以上、全国から志願者が来る中で、他の県との関係性や、全国的な視野で進めなければ、佐賀大学単独で行うと混乱が起こるのではないかと。特色加点については、経済学部では商業系の推薦入試ですで行っており、方向性の一つではあるが、これを一般入試に広げられるかどうかの問題ではないかとの発言があった。また、教員や医師を目指す高校生のための高大連携と違い、高校生が明確な職業をイメージできていない中、経済学部としてどのようなプログラムで高大連携を展開するかが難しいとの発言があった。

工学系研究科長から、試験として取り入れるのであれば CBT の実施環境は重要である。誰かがサジェスションできるような環境では公平性が保たれない。特色加点の高大連携について、全国ベースで受験生が集まるとなると、全国の高校と連携しなくてはならなくなる。そうなると今の人材では対応できない。そこを考えるとエリアを絞り込まないといけないのではないかと。また、高大連携でモチベーションの高い学生を入学させるのは良いが、経済学部長がおっしゃったように職業に結びついていないところが問題点ではないかとの発言があった。

農学部長から、企業の方から就職後の様子について、通常の入試を受けて入学した学生のほうが、学力評価を受けていない推薦入試の学生よりも平均的に活躍しているという話を聞くと、特色加点をどう評価すれば良いのか本当に難しいと感じる。入試改革の進め方としては、やはり基礎学力の評価割合を多めに、特色加点の割合は少めから始めたほうが良いのではないかととの意見があった。

アドミッションセンター長から、次のような回答があった。高大連携活動については、一部の地域だけに提供して、それが主要な評価基準になることは避けなければならない。それとは切り離して、高いモチベーションを持った学生を育成するための活動であり、できればそのような学生に佐賀大学に入学してほしい。途中で方向転換をする場合については今後検討したい。CBT の実施については、特別な試験をするわけではなく、今までのペーパーベースではできなかった一般科目に関する学力を計るために活用したい。学力試験をきちんと行って基礎学力を担保したうえで、それに加えて新しい力を持った学生を受け入れたい。

学長から、現在日本の大学生の 4 割は A0 または推薦入試で入学しており、学力テストを受けていないところに問題がある。高校の基礎学習と大学進学者学力評価テストをクリアしなければ大学に進学させないような仕組みにしなければならない。そのうえで従来型の知識偏重の個別学力試験ではなく、CBT 等を活用したこれまでとは違う特別な学力試験を課す、というのが文科省の見解であるとの発言があった。そして、アドミッションセンターからの提案はまさに特別入試であり、個別加点のルールは学部・学科・コースにより当然異なるものである。集計も別となると、一般入試として行うのは現在の人材では当面無理である。推薦と A0 から取り入れていかざるを得ない。また実際問題として、公平性と公正性の点からも工学系研究科長の意見の通り技

術的問題があるので一般入試に取り入れるのは当面無理である。但し国の入試改革の方針が決まっている以上、大学としても取り組まざるを得ないので、まずはできるところからやっていくとの発言があった。

評議員から、今の日本の教育の悪の根源は大学入試の在り方だと思っているので、改善されるのは良いと思うが、片方で学力重視、片方では主体的な活動重視というのは、今の小学校から高校の在り方を本当に良くするものだろうかという疑問がある、との意見があった。

また、実際3年後に高校に入学する学生は新しいシステムの受験になるので、佐賀大学が受験しやすいと思えるようにするために、情報をできるだけ公表してほしいとの発言があった。

瀬口理事から、各部局で入試改革の重要性をご理解いただき、引き続き真摯なご意見をいただきたいとの発言があった。

以上